

# ひきこもり等に関するアンケート調査 報告書（概要）

平成29年2月

大津市市民部

## 1. 調査の手法・目的

本調査は、ひきこもり等の状況を把握し、今後の施策展開の基礎資料とすることを目的に、市内の民生委員・児童委員の皆様のご協力を得て、担当地区において把握している情報をアンケート用紙に記入していただく手法（新たに個別訪問や関係先等への照会を行わない）により実施した。

## 2. 定義

この調査では、次に該当する方を「ひきこもりの状態の方等」とした。

(1) おおむね15歳以上の方で、次のいずれかに該当する方

- ① 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態の方
- ② 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流はないが、時々買い物などで外出することがある方

(2) 上記に準じ、無業者や非行など、民生委員・児童委員の皆様からみて心配な方、また、家族等から支援などについて相談があった方

※ただし、重度の障害、疾病、高齢等で外出できない方を除く。

## 3. 調査の基準

平成28年7月現在

## 4. 調査方法

市内の民生委員・児童委員572人に対する調査票の配布・回収を行った。

## 5. 回収結果（有効回収率）

442人（77.3%）

※地区ごとに調査票の回収を行っており、当該地区の民生委員・児童委員数を超える数の調査票の提出があった場合は、当該地区の民生委員・児童委員数分の提出があったものとみなして回収結果を算出している。

## 6. 調査の結果（概要）

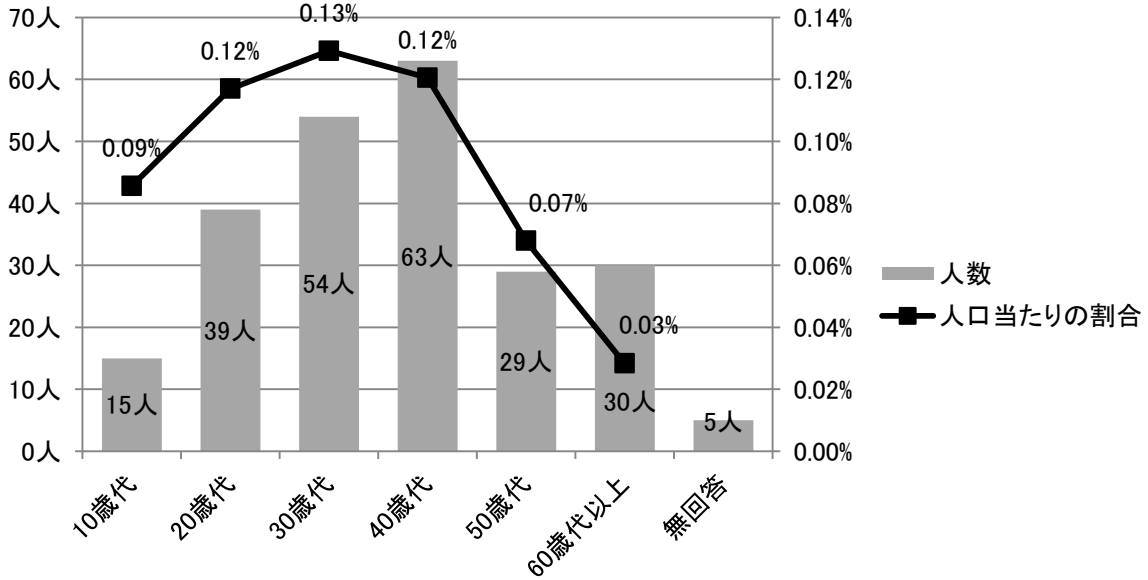
- ・主な調査結果を次の(1)～(7)に記載する。
- ・割合は四捨五入して算出した。そのため、合計値が100%にならない場合がある。
- ・調査対象の年齢により、図表中の「10歳代」はおおむね15歳以上20歳未満の方を示す。

(1) ひきこもりの状態の方等の人数

○この調査で把握できたひきこもりの状態の方等は、市全体で 235 人であった。  
○人口当たりの割合は 0.08%となっている。

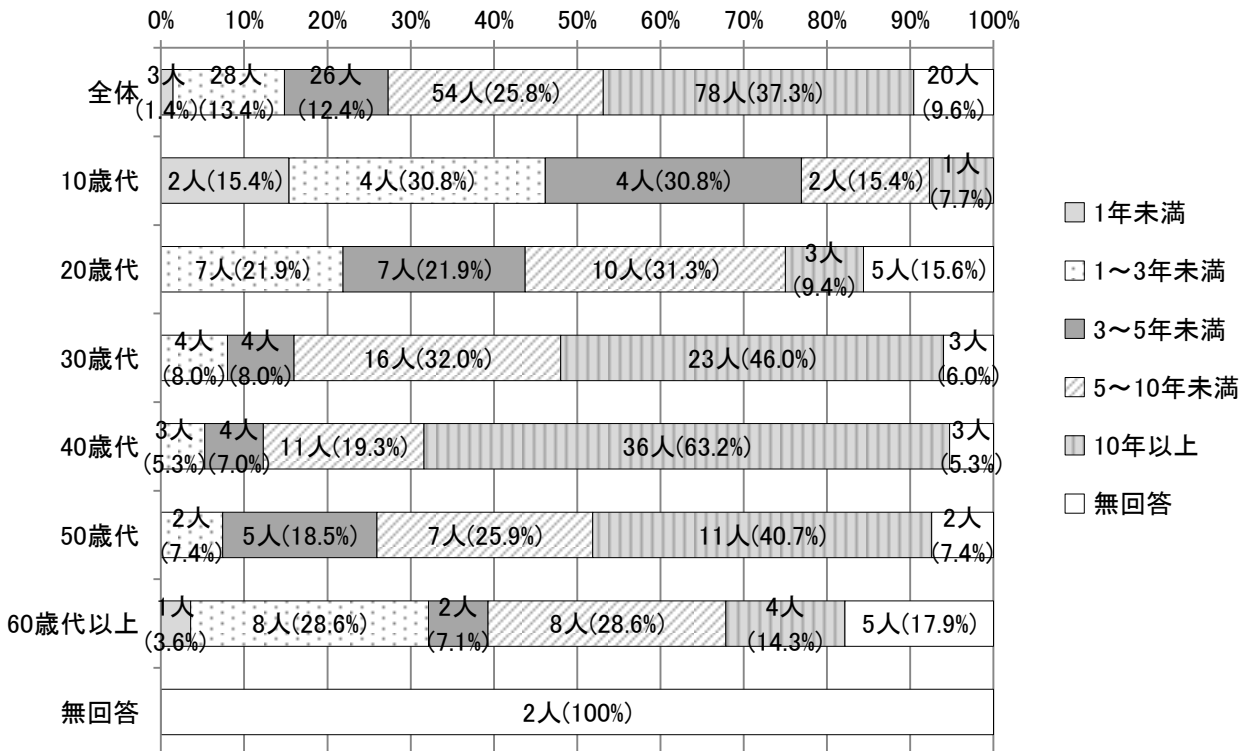
(2) ひきこもりの状態の方等の人数（年齢別）

○人口当たりの割合を年代別にみると、30 歳代が最も大きく、次いで 40 歳代、20 歳代となっている。



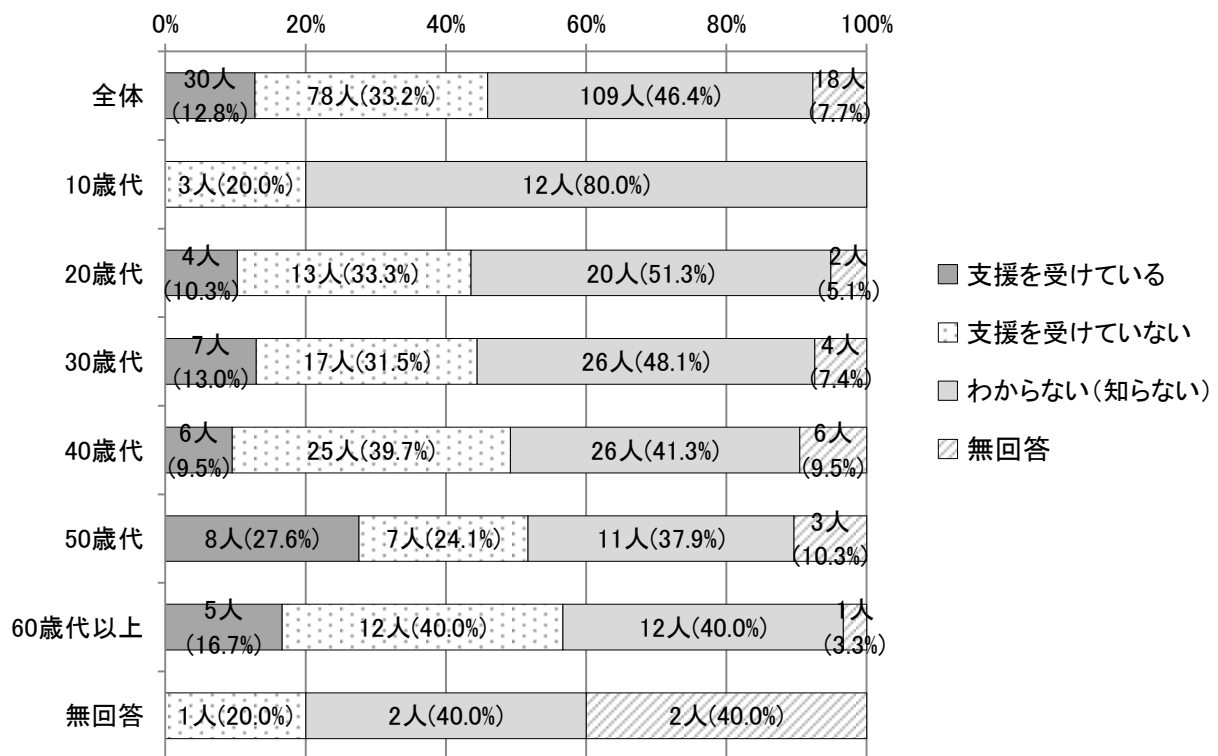
(3) ひきこもり状態にある期間

○「10年以上」の割合が 37.3%と最も大きく、40 歳代においては 63.2%を占めている。



#### (4) ひきこもり状態の方等の支援状況

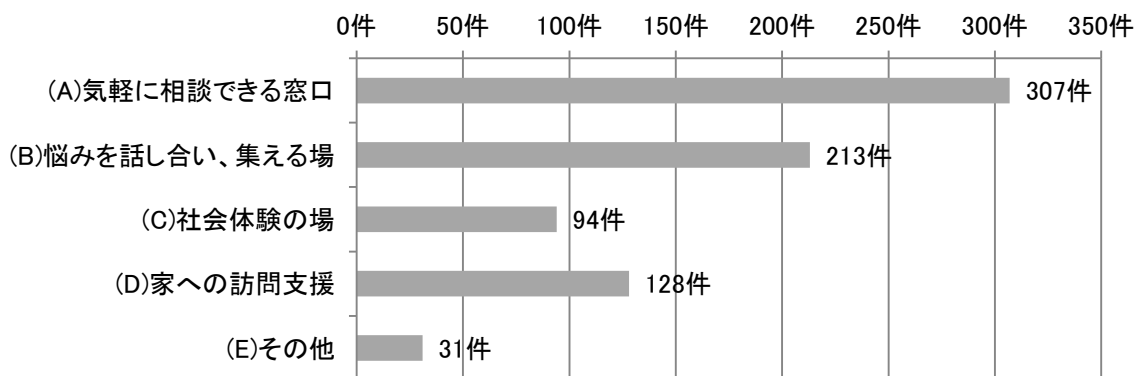
○「支援を受けていない」は33.2%で、「わからない(知らない)」を含めると79.6%となっている。



#### (5) どのような支援が必要と思われるか

○下図の(A)～(E)からの選択により回答を受けた(複数回答可)。

○「気軽に相談できる窓口」が307件と最も多く、次いで「悩みを話し合い、集える場」が213件となっている。



(自由記述抜粋)

- ・電話、ファックス、メールなど、いろんな形で相談できる状況が必要だと思う。
- ・いずれの支援も大切であるが、本人及び家族から相談がないと一歩が踏み出せない。
- ・家族が気軽に相談できる場所、方法。
- ・同年代のひきこもりから自立された方による家庭訪問で話し合い、励まし支援。

## (6) その他の自由意見

○自由意見は 125 人の方から 146 件寄せられた。

○自由意見を大きく 5 つに分類し、下表のとおり一部抜粋した。

分類	件数	一部抜粋
①把握が難しい	30 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家から出てこないなので、実際のところ様子がわからない。</li> <li>・本人に会うことは難しく、家族も（特に近所には）話したくないようで、詳細がわからない。</li> <li>・ひきこもりの方は「いない」と答えたが、実際は気がついていないのかもしれない。</li> </ul>
②相談窓口	16 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を卒業、退学すると、どこへ相談したらよいのかわからないという声がある。</li> <li>・夜間、休日など、行きやすい環境を作る。</li> <li>・ご家族の方が、誰かに先ず相談することのできる、気軽に行ける場の案内と提供が必要だと考える。</li> </ul>
③支援が難しい	24 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかっても手が出せない場合が多い。</li> <li>・状態が長期間になっている場合は解消に向かう事が大変困難であると思う。</li> <li>・子どもがひきこもりであっても、親が第三者の支援を要していない場合、どこまで介入して良いのか迷う。</li> </ul>
④支援方法	47 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口が第一歩。その後、色々な場へつなげる。チーム作り、訪問等々。</li> <li>・居場所を作り、声掛けをし、気軽に話し合いが出来るようにする。</li> <li>・社会体験の場を提供し、自立を促す。</li> <li>・家族も苦しいと思う。家族の精神的ケアも大切。家族が安定していれば、本人の出口は必ず見えてくる。</li> </ul>
⑤その他	29 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本は、隣近所のお付き合いが大切だと思う。「一人で生きられる」と思われている方の気持ちの方向性を変えていく必要がある。</li> <li>・親が亡くなれば、本人の生活に不安が生じる。</li> </ul>

## (7) 結果のまとめ

この調査においては、235人の「ひきこもりの状態の方等」がいることを把握できた。

また、調査の集計などから、次の3点のことが考えられる。

### ①「ひきこもりの状態の方等」の人数

- ・周囲に話したくない。
- ・噂を耳にする事がなく、把握が困難。
- ・家から出てこないなので詳細はわからない。

といった意見が多いことから、この調査では把握できなかった方が多くいると考えられる。

### ②ひきこもり状態の期間

ひきこもり状態が10年以上である方は37.3%に上る。30歳代では46.0%、40歳代では63.2%に上る。20歳代や30歳代からひきこもり状態となり、そこから脱する事ができていないと考えられる。

### ③「ひきこもりの状態の方等」の支援状況

「支援を受けていない」方は33.2%、「わからない(知らない)」方を含めると79.6%となる。

以上の3点から、

「ひきこもりの状態の方等は相当数おり、その状態は長期的で、支援を受けていない傾向が強い。」

と考えられる。